

「野遊びの達人」養成プロジェクト内容報告

9月14日（土）13：00～17：30

【講義・演習】 「子どもの野遊びと学び」

沖縄キリスト教短期大学 准教授 張本 文昭

「野遊び」「自然体験」の現状から話を聞いた。昔は、「自然体験」と言わずに行っていた活動だが、今は、自然があってもやらない。これからは、環境を整えるだけでなく、自然体験を経験した人が親になった時に子供にさせることで自然体験が広まっていくと考えられる。また、講師が幼少期の頃の自然との関わり方を聞き、自然の中で遊んでいた経験を知った。

今はあまり見かけなくなってきた「野遊び」。では、その「野遊び」とは一体何か、という疑問を解決するため、各自の持っているイメージや経験から「野遊び」を連想した。

そして「野遊び」の実際に迫っていくよう、意見交換を行い、より具体的な活動をイメージした。



9月14日(土) 18:00~21:00

【演習・情報交流】 「野遊びの現在」

沖縄キリスト教短期大学 准教授 張本 文昭

遊びの原点は海辺の砂遊びであるという論点について紹介していただいた。遊びとは、人間としてその時期にやりたいことであり、子供がやりたい遊び、大人が意図して行う遊びなどがある。また、「野遊び」の現状を紹介していただきながら、自分たちの経験や、実態について自由に意見交換をした。出身地域や年齢・性別によっても「野遊び」と思える活動の程度に差があり、経験値には個人差があった。

そこで、それぞれの経験や思いを紹介しあい、自分たちが思う「野遊び」とはどのようなものか意見を出し合った。山の環境を生かした体験、海や川の環境を生かした体験など個々の体験をもとに「野遊び」とは何かを考えた。



9月15日(日) 8:30~12:00

【実習・演習】 「野遊びの愉しみ～浜辺編～」

沖縄キリスト教短期大学 准教授 張本 文昭

天候は悪かったが元海岸に行き、砂浜や流入する川の川岸で色々な遊びを体験した。初めは一人ずつに分かれて遊びを考え、行動した。水の流れを利用したり、落ちている道具を使ったりして遊んだ。水際には、波の動きにあわせて遊ぶ者、海に石や木の棒を投げて遊ぶ者がいた。河の流入口では、水の流れをせき止めたり、流れる方向をかえたりして遊ぶ者がいた。また、川を上流に向かって歩きながら魚を追ったり、落ちている缶を使って罟を仕掛ける者もいた。

時間がたつにつれて、徐々に遊ぶ人数が複数になり、落ちている道具を使って物を作ったり、大きな石を運んで遊んだりするようになった。

遊びでは、1人で夢中になる者もいるが、時間が経過すると、自然に人が集まってきて集団が形成され、遊びも変化することを体験した。



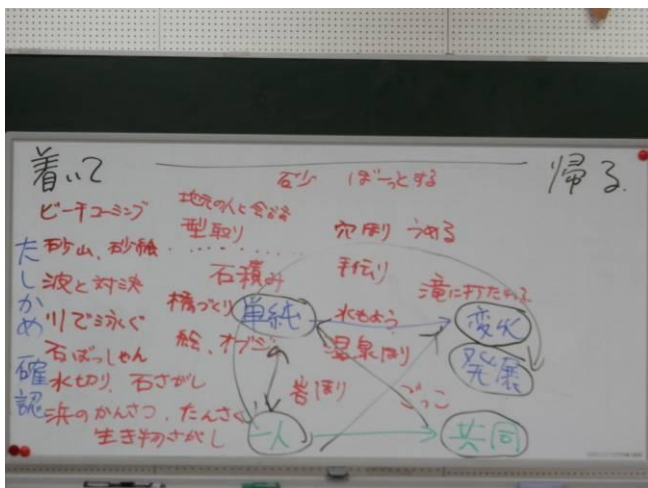
9月15日(日) 13:00~14:00

【実習・演習】 「野遊びの楽しみ 振り返り」

沖縄キリスト教短期大学 准教授 張本 文昭

午前中に行った海辺での活動について振り返る時間となった。それぞれが活動した内容について紹介しあった。初めは一人で活動することで、それぞれが熱中した遊びが数多く紹介された。一人遊びの場合は、基本的に単純な遊びが多いことがわかった。しかし、時間がたつにつれて複数で活動するようになると、遊びが変化してきて、内容が発展しているのがわかった。走ったり、物を投げたりする単純な遊びから始まり、徐々に物の作成になり、複数になり、より複雑化していく遊びを行っていた。

海辺の遊びが、遊びの発展していく様子を体験させた。



9月15日(日) 14:00~17:00

【講義・演習】 「野遊びの愉しみ～山編～」

国立室戸青少年自然の家 主幹 片山 貞実

※野遊びの愉しみ～海編～に替わり、「自然体験活動の技術」に該当

荒天のため、自然の家および周辺での活動となった。

グループごとにビンゴカードを配布し、各マスの中に「カタカナの繰り返し言葉」を記入し、その事象を相手グループに探してきてもらう「カタクリコビンゴ」を行った。

室内及び建物周辺の限られたエリア設定であったが、「ツルツル」「ザラザラ」など数多くの言葉で表される事象があることに気付いたり、人によって捉え方が同じものや、違う視点からの表現もあるなど、気付いたことを後から分かち合いを行った。

ここでのポイントは、「対象に合わせた適切な難易度」ということ。「遊び＝楽しい」であるためには、簡単すぎても難しすぎても成立しない。適切な難易度であるからこそ、チャレンジをし、達成することの喜びを得ることができる。指導者として、対象を見極めながら、レベルに応じた課題設定を行う必要があることを体験した。



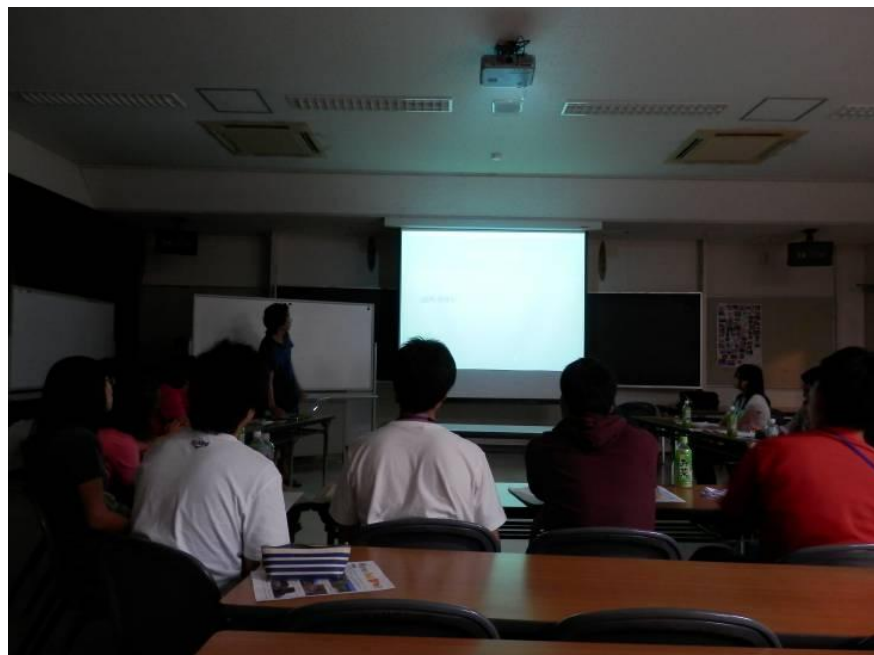
9月15日(日) 18:00~21:00

【講義・演習】 「野遊びの効能」

沖縄キリスト教短期大学 准教授 張本 文昭

「野遊び」を体験することによって得る効能をテーマに話し合った。初めに、講師の娘さんたちの遊びの様子を見ながら、行動の変化について説明を受けた。また、自分たちが体験した遊びの体験をもとに、遊びによって行動や心情にどのような変化が起きたかといった状況を話し合った。

遊びは、環境や天候、地形などによって様々な遊び方を体験することができ、人数が増減することで遊びの性質も変化することに気付いた。遊びは、単純なものから、より発展したものまで変化をし、人が自然に集まる現象が見られた。遊びによって、個人の集中力も変化し、周りの人との人間関係の構築にもつながっていることを意識した。



9月16日(月) 8:30~12:00

【講義・演習】 「野遊びの企画」

沖縄キリスト教短期大学 准教授 張本 文昭

最後に、野遊びの企画を各個人で立てた。自然な感覚で考えることができるように、思考する場所を自由にして、それぞれの企画を作成した。

遊ぶ場所の環境、人数、その他の条件を自らが想像して、遊びにつなぐ企画書を作成し、作成した企画を参加者に紹介した。

今回の講習で、「野遊び」とは何かという疑問を解決するために考え、実際に体験した水辺の遊びを通して、自分が理想とする「野遊び」を企画していた。



9月16日(月) 12:30~14:00

【講義・演習】 「講習のまとめ」「指導者認定筆記試験」

沖縄キリスト教短期大学 准教授 張本 文昭

高知県教育委員会事務局生涯学習課 チーフ 瀬沼 健

講師から、今回の講習のまとめを聞いた後、高知県教育委員会生涯学習課の説明で、指導者認定筆記試験を実施した。

